

「岩崎元郎と10年間で完登をめざす、日本百名山登山教室」

来年1月よりスタート

来年66歳になる。トシトシと言っでは、先輩諸賢から失笑を買っている。今回はトシにチャレンジする話、とすることでご容赦頂きたい。世間的には、20年前に比べると10歳は若い。70歳の方は60歳、60歳の方は50歳、65歳のぼくは55歳に相当するという計算だ。

昔、60歳というのはタイヘンなものだった。こんな小学唱歌があった。「村の渡しの船頭さんは、今年60のおじいさん……」。遠足倶楽部初期の頃、参加者の大半は50代前半の女性であった。その夏に白馬岳での登山教室をメニューに載せたところ、60歳の女性が申し込んできた。ぼくは、おばあちゃんが一緒だよ、どうしようと思ったことを今でも鮮明に覚えている。60歳なんて、いまなら50歳なのにね……。

トシをとらない最強の方法は、いつでも夢を抱いていることであろう。1993年にスタートさせた、「岩崎元郎と5年間で完登をめざす日本百名山登山教室」も素敵な夢だった。これが大ブレイク、毎回10人～20人、多い時は25人も参加してくれた。5年間だから1年に付き20山登ればいいのだが、5年目は予備年として、1年25山づつ計画。ぼくも皆さんも若かったためか、雨が降っても楽しく登り、予定通り4年目の96年には100山登ってしまった。その後何回となく百名山登山教室を、「山の遠足」メニューで取り上げるのだが、いまいち盛り上がらない。いま思えば、最大の要因は岩崎が忙しさにまかせて、企画を他人任せにし、夢を共有しようという熱に欠けていた、という反省がある。

これまで、山を仕事として楽しく充実した日々を過ごしてきたから、自分は世界一の幸せ者だと思ってきた。これからもそんな日々の延長線上にあるはず、それで充分と満足していて、ぬるま湯に浸かっているような状態だったのだろう。ある日、「これからの5年、10年の夢は？」と問われて、ドキッとした。答えにつまってしまった。その間が、夢を忘れていたことに気付かせてくれた。夢を忘れたら、たちまちトシヨリになってしまう。土俵際で目が醒めた。目が醒めると、目の前に素敵な夢がたくさん浮かんでいることに気が付く。「山の出前講座」を津々浦々にお届けしたり、もっと実のある「山歩き」や「自然保護」に関わる番組提案、やるべきことはいっぱいあるなあ……。

その一つが、「岩崎元郎と10年間で完登をめざす日本百名山登山教室」。5年間だと、1年で20山登らなくてはならないので、ハードになるし、「地球を遠足」はこれまで通り続けたいので、10年間にした。来年1月8日(土)筑波山からスタート、毎年10山前後マナイタに乗せていく。雨が降ったら、行くかやめるかちょっと考える……。10年後の2020年には100の頂きに立って、100の喜びに輝いていることだろう。夢は、向こう10年、限りなく広がっていく。